社団法人　日本地すべり学会

# 中部支部ニュース

第 11 号

〒 380-8553
**中部支部事務局**
長野市若里 4-17-1
信州大学工学部
社会開発工学科内

## 巻　　頭　　言

幹事長　**長井隆幸**
（長野県建設部参事兼砂防課長）

平成 21 年 4 月に長野県砂防課長に就任して 1 年が経ちました。平成 21 年は 7 月に中国・九州北部豪雨による土砂災害により、山口県防府市では特別養護老人ホームで大きな被害が発生し 7 名の尊い命が奪われました。

長野県においても、平成 21 年 8 月に諏訪地域で 1 時間に 100 mmを超す局地的大雨による土砂災害や、北信の西山地区で地すべり災害が多数発生しました。家屋への被害をはじめ、多くの住民の方々が避難生活をする等、不安な生活が続きました。

こうした中、被災地での踏査、観測機器の設置等の迅速な対応や、警戒避難体制の整備への助言、早期復旧に向けた対策工法の検討等、会員の皆様のご尽力に対し改めて感謝申し上げます。

さて（社）日本地すべり学会中部支部は会員の皆様の積極的な参加により、活発な活動が続いていることを心強く感じております。平成 21 年度の活動内容につきましては、6 月に長野市において総会・講演会（129 人参加）、10 月には岐阜県で「大規模岩盤地すべり地の対策事例と中山間地の地すべり跡地利用例」という視点から現地見学会（46 人参加）が開催されました。さらに、11 月には伊那市において「土砂災害防止と災害教育～災害の教訓とその伝承～」と題し、シンポジウム（230 人参加）が開催され、支部内外の各地から多くの技術者の方々の参加をいただき活発な討論が行われました。同日に行われた子供シンポでは、次の世代を担う子ども達が災害の教訓、防災の知識や経験をわかりやすく演劇やグループ発表するなど、被害軽減の取り組み等が幅広い年齢層、次世代へ着実に浸透していることを感じました。

また地域の皆様のニーズを捉え上伊那の駒ヶ根市、宮田村で主体に展開している「駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム」のサポート団体として参加するなど、地域社会へ貢献できる支部活動を支部活動を歩みはじめました。

平成 22 年度は 6 月 16 日に長野市で総会、市民講演会、秋には石川県に御協力いただきまして現地見学会を予定しております。今後もさらなる技術向上を目指し、積極的な活動を行っていきたいと考えておりますので、引き続き会員皆様のご理解と御協力をお願い申し上げます。

# 現地見学会の開催

北陽建設株式会社
宮澤洋介

○ **概　要　参加者 46 名（バス 2 台）**

**時　間** 平成 21 年 10 月 14 日（水）　午後開催

**場　所** ① 南垣外（みなみがいと）地すべり　岐阜県瑞浪市日吉町

② 山神（やまがみ）地すべり　岐阜県土岐市下石町

**案　内** 八嶋　厚　副支部長（岐阜大学工学部教授）、岐阜県砂防課、岐阜県多治見土木事務所
日本工営（株）名古屋支店
基礎地盤コンサルタンツ（株）名古屋支社

## 「現地見学会に参加して」

昨年の富山県に続き、本年は岐阜県で行なった。JR 瑞浪駅より小型のバス 2 台に分乗して南垣外地すべり、山神地すべりの順で見学し、まとめの会を「土岐市南防災センター」で行なった。その後、場所を多治見市に移して懇親会が行なわれた。

南垣外地すべりは長さ 300 m、幅 750 m、最大深さ 86 mの巨大な地すべりである。新第三紀中新世の瑞浪層群土岐夾炭層をすべり面とする丘陵地で、頭部には以前の地すべり活動により大規模な陥没帯が形成されている。活動が活発化すると末端の南垣外川の河川閉塞の危険があるため、平成 2 年度より大ブロック対象の対策工が実施されている。対策工は排土工＋抑え盛土工＋集水井工であり、現況安全率 fs ＝ 1.00 から計画安全率 P.Fs ＝ 1.15 を確保しようとするものであった。しかし基準の改定などの周辺環境の変化により、地元と連携した監視活動などのソフト対策を併用することで、暫定的に押え盛土工までの P.Fs ＝ 1.10 で概成に導き、部分的に活動のおさまらない部分に集水井を追加するように方針が変更されている。大規模地すべりでは活動が比較的遅く、急激な活動の可能性も小さいことと、経済性の面でも妥当と思われた。ソフト対策と合わせて概成後の計画的な維持管理が重要と考えられる。

「後世に負担をかけない効果的な排土＋抑え盛土を強く提案した。」といわれた矢嶋先生の言葉が印象的であった。

山神地すべりは昭和 37 年より変状が生じ、昭和 40 年には頭部断層沿いに延長 500 mの大陥没が生じたもので、当初は建設省中部地方建設局により緊急調査及び下石（おろし）川付け替えがおこなわれ、昭和 42 年より岐阜県が引き継ぎ、地すべり対策工が立案され、排土工、集水井工、鋼管杭工、アンカー工などの対策工が平成 4 年までに完了している。昭和 51 年頃までに地すべり活動はおさまり、地すべり跡地利用として昭和 54 年に総合公園計画が立案された。昭和 60 年から地形改変に伴う地すべり解析を行ないながら、野球場、多目的グランド、テニスコート、子供広場、駐車場などが整備された。総合公園は平成 6 年に完成し、多くの市民に利用されている。現在は公園の道路の目視観察により監視を続けているとのことである。

両地すべりともすべり面勾配が水平に近い大規模な地すべりであり、山岳地のすべり面傾斜のある小規模な地すべりばかり扱っている私には非常に興味があった。

今回の見学会に当り、見学場所の選定、計画、実施までの全てを執り行って頂いた準備会幹事長矢嶋先生初め、岐阜県砂防課、多治見土木事務所及び関連コンサルのみなさんのご尽力に大変感謝申し上げます。





## ○ 現地見学会（南外垣地すべり、山神地すべり）現地見学のようす

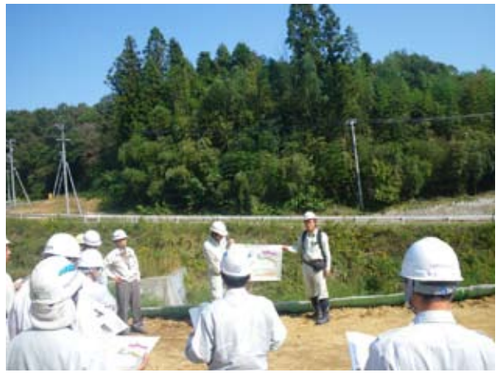
**1：見学場所**　①南垣外（みなみがいと）地すべり（岐阜県瑞浪市日吉町南垣外地内）
②山神（やまがみ）地すべり　（岐阜県土岐市下石町山神地内）

**2：日　程**

| | |
|---|---|
| 12:30 | JR 瑞浪駅　北ロータリー前集合 |
| 12:40 | 出発　「貸し切バス 2 台で移動しました」<br>南垣外地すべり　到着<br>①南垣外地すべり　現地見学（13:10 ～ 15:10）<br>「出発前、冷たいお茶で一息」 |
| 15:10 | 出発 |
| 15:40 | 山神地すべり　到着<br>②山神地すべり現地見学（15:40 ～ 16:10）<br>「岐阜県砂防課、岐阜県多治見建設事務所のご担当による丁寧な説明に納得」 |
| 16:10 | 出発<br>土岐市南防災センター<br>③現地見学まとめの会（16:20 ～ 17:20）<br>「参加者による活発な意見交換が行われました」<br>挨拶：「岐阜大学　八嶋教授（現地見学会実行委員長）」<br>発表：岐阜県　砂防課、多治見土木、基礎地盤コンサルによる発表（司会進行：基礎地盤コンサル） |
| 17:20 ↓ 18:00 | 土岐市南防災センター出発<br>↓<br>JR 多治見駅　懇親会欠席の方々はここで下車・解散 |
| 18:10 | 懇親会場到着　会場（オースタット国際ホテル多治見） |
| 18:30 ～ 20:30 | ④懇親会　「参加者による活発な技術の意見交換が行われました」<br>主催者挨拶　岐阜大学　八嶋教授（現地見学会実行委員長）<br>支部長挨拶　静岡大学　土屋教授（<社>日本地すべり学会中部支部長）<br>（司会進行：日本工営） |

南垣外地すべり、頭部滑落崖の観察

南垣外地すべり、末端部押さえ盛土の観察



南垣外地すべり、現地調査結果発表

山神地すべり、現地調査結果発表

## （社）日本地すべり学会中部支部シンポジウム
## 「土砂災害防止と災害教育」－災害教訓とその伝承－

**日　時** 平成 21 年 11 月 10 日（火）　午後 1 時～午後 5 時

**場　所**「いなっせ」大ホール（伊那市）（JR 飯田線伊那市駅から徒歩 3 分）

**プログラム**

11:30～　受付開始
★ 11:30～15:00　ポスターセッション、パネル展示
13:00～　開会、支部長挨拶、開催地挨拶（伊那市長　小坂樫男）
13:20～　子どもシンポ（伊那小学校 5・6 年児童による発表）
14:00～　基調講演「災害と水文化」（信州大学副学長　笹本正治）
15:15～　パネルディスカッション「土砂災害防止と災害教育」－災害の教訓とその伝承－
・司会（信州大学名誉教授　北澤秋司）
・パネラー（信州大学副学長　笹本正治、前 伊那小学校長　北原和俊、信州大学教授　平松晋也
中川村歴史民俗資料館学芸員　伊藤修、伊那市総務課防災係長　山口俊樹）
17:00　閉会

日時：平成21年11月10日（火）
午後1時～午後5時

場所：「いなっせ」大ホール（伊那市）
（JR飯田線伊那市駅から徒歩3分）

＜プログラム＞

■11：30～：受付開始
★11：30～15：00：ポスターセッション、パネル展示
■13：00～：開会、支部長挨拶、開催地挨拶（伊那市長　小坂樫男）
■13：20～：子どもシンポ（伊那小学校5・6年児童による発表）
■14：00～：基調講演「災害と水文化」（信州大学副学長　笹本正治）
■15：15～：パネルディスカッション「土砂災害防止と災害教育」－災害の教訓とその伝承－
・司会（信州大学名誉教授　北澤秋司）
・パネラー（信州大学副学長　笹本正治、前 伊那小学校長　北原和俊、信州大学教授　平松晋也
中川村歴史民俗資料館学芸員　伊藤修、伊那市総務課防災係長　山口俊樹）
■17：00：閉会

★シンポジウム参加を希望される方は、下記の申込先にご連絡ください。なお、一般の方は当日受付にても参加していただけますので、お気軽にお越しください。
【参加申込・問合せ先】※申込用紙は裏面にあります。
（社）日本地すべり学会中部支部事務局シンポジウム受付係
（担当：小野）　E-mail. ono-kaz@mth.biglobe.ne.jp
〒390-0851松本市島内東方5037-1
電話：0263-47-5809　FAX：0263-47-6798

★このシンポジウムはCPD（4.5ポイント）の対象となります。

★シンポジウム終了後に意見交換会を開催します。【場所】「いなっせ」会議室501・503 【時間】 17時20分～19時20分　【参加費】 4,000円

（主催）社団法人日本地すべり学会中部支部　（共催）伊那市／伊那市教育委員会
（後援団体）国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所／国土交通省中部地方整備局三峰川総合開発工事事務所／ 国土交通省中部地方整備局天竜川ダム統合管理事務所／林野庁中部森林管理局南信森林管理署／林野庁中部森林管理局伊那谷総合治山事業所／長野県／長野県治水砂防協会／長野県砂防ボランティア協会／（社）斜面防災対策技術協会中部長野県支部／上伊那広域連合／伊那ケーブルテレビジョン（株）／飯田エフエム放送／中日新聞社／新建新聞社／長野日報社／信濃毎日新聞社／みのわ新聞社





## 開催趣旨

伊那市ではじめて表記シンポジウムを開催することは，天竜川上流域における災害事例が多いことにある。正徳 5 年（1715）「未満水」，昭和 36 年 6 月（1961）いわゆる「伊那谷 36 災害」，昭和 57 年（1982）昭和 58 年(1983)と 2 年連続の豪雨災害，また平成 18 年 7 月豪雨災害など生命財産の多大な被害を受けた。

戦後，災害復旧の事業が密に展開されると共に気象観測データが年々蓄積され、最近では災害情報がかなりの精度で配信されるようになった。しかし災害に強い安心安全な住環境を創出することができたわけではない。

地域に住む人々にたいしてハード面の防災施設を充実すると共に、ソフト面での防災訓練，災害危険地域の情報公開，防災教育や啓発、防災アドバイザーの養成等，災害に対する日ごろからの取り組み備えが必要である。

これまでに起きた過去の災害と当時の対処の方法、教訓や伝承を参考にしながら，これからの災害対応を学び実践することが益々必要となってくることは容易に想像される。

（社）日本地すべり学会中部支部が包括する中部 7 県は，多くの地すべり地帯を抱えている。中部支部では地すべり調査，解析，土砂災害対策の研究等に携わりながら，次世代を担う若い人々に対しても知識，技術，対処の方策等を共に学びながら伝承する活動を継続している。

最近の伊那谷における取り組みでは、天竜川上流域の防災力の向上を目指して，過去の災害記録のデータベース化や各界の有識者，体験者，教育者，マスコミ関係者等多彩なメンバーによって災害教訓伝承手法の検討が進められている。また昨年より伊那市立伊那小学校の総合学習では防災と社会や、天竜川の治水と農業、土砂災害・水害などをテーマに児童たちは学んでいる。

児童たちは災害体験者らの語り継ぎ、長野県や天竜川上流河川事務所の支援を得ながら学んでおり、「災害教訓伝承」活動がここに開始されている。

このような活動をさらに推進、定着させるための意義は大きく、シンポジウムのテーマを「土砂災害防止と災害教育」－災害の教訓とその伝承－とした。

平成 21 年 11 月 10 日
（社）日本地すべり学会中部支部　企画部

## 基調講演

平成 21 年度（社）日本地すべり学会中部支部シンポジウム

**基調講演　災害伝承と水文化　－天竜川上流域災害教訓伝承手法を例に－**

笹本正治（ささもとしょうじ）信州大学副学長 信州大学人文学部教授　博士（歴史学）

### はじめに

**大きな流れ**

様々な災害－台風、地震、火事、地球温暖化
→雨の降り方の変化などにより天竜川の洪水も懸念される
地域独自の災害－環境と時代
→災害は地域により変化、歴史の中で大きく変化
忘れ去られた災害－現代では目に付かなくなった災害
→干害、流行病→新型インフルエンザ
地域の文化の確認－巨大災害にばかり気を取られていると足下をすくわれる
→もっとも身近な災害に常に気をつけよう

**防災のために**

地域災害の実態を知る
→歴史学、考古学、民俗学、社会学、社会心理学
人々は過去の災害といかに闘ってきたか
→災害文化研究の必要性
私たちが忘れている防災知識の確認
マニュアルのみでは対応できない災害

天竜川上流河川事務所では天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会を組織

「災害と水文化」信州大学副学長
笹本正治　教授

**近隣の土石流災害と伝承**

災害の事実は忘れ去られがち＝忘れたい

### ● 諏訪市四賀桑原の鮎沢さんの「鮎沢系図」

鮎澤肥前守六代之孫鮎澤源吾・孫右衛門・姉共二鮎澤村二而誕生、姉者橋原村へ嫁ス、此時正保二丙戌五月廿三日、**蛇崩レニ而家屋鋪不残押流され、**右両人漸く命をたすかり闇夜橋原村姉之方江引越、正保三丙戌八月横川村江引移る、正保二兄十才、弟八才

鮎澤肥前守の 6 代の孫に当たる鮎澤源吾、孫右衛門は姉と共に鮎澤村（岡谷市川岸）において誕生した。姉は橋原村（同）へ嫁いだ。この時、正保 2 年 5 月 23 日（ユリウス暦＝西暦 1645 年 6 月 7 日、グレゴリオ暦＝西暦 1645 年 6 月 17 日）、蛇崩れによって家屋敷が残らず押し流された。源吾と孫右衛門の両人はようやく命が助かり、橋原村の姉の所へ引っ越した。その後正保 3 年 8 月に横川村へ引き移った。蛇崩れにあった正保 2 年に兄は 10 才、弟は 8 才であった。

→土石流が 1645 年にあった＝もっとふるさとに目を向けよう
　災害が起きる前から災害情報の収集

## ● 木曽与川（南木曽町）の土石流

南木曽町に与川という川が流れています。その川をさかのぼった山では、貴族の家を建てるために大ぜいの木こりが集められ、役人のもとでたくさんの木が切られていました。その木こりの中に、正直者の与平という男がいました。

ある雨の激しい夜、与平は「トン、トン。」と小屋をたたく音に目をさましました。恐る恐る戸を開けると、白い着物を着た女の人が悲しげに立っていました。そして女の人は「これ以上木を切り倒すと、必ず悪い事が起こるでしょう。」と言い残して雨の中にスーッと消えてしまいました。

あくる日、与平はこのことを仲間に話しました。木こりたちはこのことばを恐れて、仕事を続けることを拒みましたが、役人は聞き入れません。こわさのあまり、とうとう与平は「はらが痛い。」と嘘をついて仕事を休んでしまいました。

その夜、いつかの女の人が現われて、「あした雨が降り始めたら、山の頂へ必ず逃げて下さい。」と言い残して、夕闇の中へ消えていきました。

次の日、女の人の言った通り、大雨が降り土砂くずれが起きました。このため、里の家々は後かたもなくつぶされて、中仙道もくずれ去ってしまいました。この時与平は、土砂に流されていく白へびを見ました。実はあの女の人は白蛇の仮の姿だったのです。

このことが起きてから、与平は木こりをやめて、馬方になり尾張の国から食物を運んだということです。

こういうわけで南木曽町には、水難を防ぐ石碑や地蔵様が多くたてられています（『私たちが調べた木曽の伝説』第五集 19 頁、長野県木曽西高等学校地歴部、1980 年）。

## ● 災害の教訓

→災害を警告する伝説
　実際に存在する地蔵尊
　目に見える形で災害の危険性、いざという時に備える意識の喚起
　→災害伝承の防災への活用
背後に存在する日本人の伝統的な意識
　女性が出てくるのは夜＝神仏やあの世のものの活動時間帯
　白い着物＝死のシンボル性
　天をもたらす（司る）白い蛇
　正直者は助かる
『静岡県史』では災害編、『伊東市史』でも自然災害部会が設けられている
　→長野県内ではまだそうした編纂はない

笹本正治（ささもとしょうじ）
信州大学副学長。信州大学人文学部教授。博士（歴史学）。
著書に『戦国大名と職人』（吉川弘文館・1988）、『武田氏三代と信濃―信仰と統治の狭間で―』（郷土出版社・1988）、『戦国大名武田氏の信濃支配』（名著出版・1990）、『中世の音・近世の音―鐘の音の結ぶ世界―』（名著出版・1990）、『辻の世界―歴史民俗学的考察―』（名著出版・1991）、『中世的世界から近世的世界へ―場・音・人をめぐって―』（岩田書院・1993）、『戦国大名武田氏の研究』（思文閣出版・1993）、『蛇抜・異人・木霊―歴史災害と伝承―』（岩田書院・1994）、『真継家と近世の鋳物師』（思文閣出版・1996）、『長野県の武田信玄伝説』（岩田書院・1996）、『中世の災害予兆―あの世からのメッセージ―』（吉川弘文館・1996）、『武田信玄―伝説的英雄像からの脱却―』（中公新書・1997）、『川中島合戦は二つあった―父が子に語るに信濃の歴史―』（信濃毎日新聞社・1998）、『鳴動する中世―怪音と地鳴りの日本史―』（朝日選書・2000）、『戦国大名の日常生活―信虎・信玄・勝頼―』（講談社選書メチエ・2000）、『山に生きる―山村史の多様性を求めて―』（岩田書院・2001）、『異郷を結ぶ商人と職人』（中央公論新社・2002）、『災害文化史の研究』（高志書院・2003）、『地域おこしと文化財』（ほおずき書籍・2004）、『戦国大名と信濃の合戦』（一草舎・2005）、『武田信玄―芳声天下に伝わり仁道寰中に鳴る―』（ミネルヴァ書房・2005）、『実録　戦国時代の民衆達』（一草舎・2006）、『軍師山本勘助―語られた英雄像―』（新人物往来社・2006）、『善光寺の不思議と伝説―信仰の歴史とその魅力―』（一草舎・2007）、『天下凶事と水色変化―池の水が血に染まるとき―』（高志書院・2007）、『村上義清とその一族』（信毎書籍出版センター・2007）、『中世の音・近世の音―鐘の音の結ぶ世界―』（講談社学術文庫・2008）、『戦国時代の諏訪信仰』（新典社新書・2008）、『武田信玄と松本平』（一草舎）、『真田氏三代』（ミネルヴァ書房）、『修験の里を歩く―北信濃小菅―』（高志書院）などがある。

**ボランティアとは**
　多様な災害のあり方と柔軟な対応→絵に描いた餅でない防災マニュアルとなる必要がある。





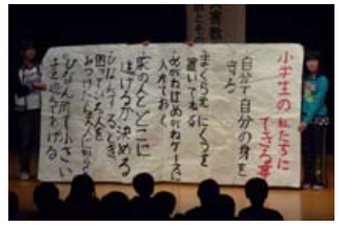
# 子供シンポジウム

５年生　森組「農業と水、天竜川の治水と利水」

講評

表彰式

６年生　秋組「防災と社会、天竜川の災害」



## パネルディスカッション

**「土砂災害防止と災害教育、災害教訓とその伝承」**

北澤先生　笹本先生　伊藤先生　　北原先生　山口先生　平松先生

# 地域連携のとりくみ「駒ケ根高原砂防フィールドミュージアム」

平成 21 年度（社）日本地すべり学会中部支部は「駒ケ根高原砂防フィールドミュージアム」運営にかかわるサポート団体となりました。駒ヶ根市、宮田村のボランティアガイドの方々との交流や、講師派遣による地すべり災害をはじめとした土砂災害防災教育を通して地域防災力向上に貢献します。支部会員の方々の研修地としての活用をはじめ、ガイドツアーへの積極的な参加をお願いいたします。平成 22 年は下記の予定での運営となっています。詳しくは下記参加申し込み、または公式ＨＰに問い合わせください。

公式ＨＰ　http://field-museum.kankou-komagane.com/

自然と人がおりなす青空博物館
駒ケ根高原砂防フィールドミュージアム

## ガイドツアー参加者募集!!（無料）

駒ヶ根高原には、千畳敷カールや光前寺のほか、まだあまり知られていない「七名石」や「こもれ陽の径」など、自然の営みや歴史が感じられるものが沢山あります。
「砂防（さぼう）フィールドミュージアム」とは、これらを野外展示物と見立てた青空博物館で、駒ヶ根高原一帯の土地の成り立ち等の自然や景観ビューポイント、人々が築き上げた文化や地域の暮らし、そして土砂災害から暮らしを守る砂防（さぼう）をご紹介するものです。
さあ、高原のさわやかな空気を感じながら、“もうひとつの駒ヶ根高原”をガイドの説明を聞きながら巡ってみませんか？心も体もリフレッシュできますよ。
11月まで、月2回の開催日を設けました。お気軽にご参加ください。

### 日程

ガイドツアーは、以下の日程で行います。

| 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 5月29日（土） | 6月12日（土）<br>6月26日（土） | 7月10日（土）<br>7月27日（火） | 8月6日（金）<br>8月25日（水） | 9月11日（土）<br>9月25日（土） | 10月9日（土）<br>10月23日（土） | 11月6日（土）<br>11月20日（土） |

### 時間帯

以下の時間帯で、こもれ陽コース又は七名石コースを巡ります。
午前：9時～12時（3時間）
午後：13時～16時（3時間）
※この時間帯で都合が合わない場合はご連絡ください。

ガイドツアーの様子

### 参加申込方法

参加したい日程の5日前までに電話、FAX又はメールのいずれかで、①参加人数、②代表者名、③連絡先を以下の場所へご連絡ください。

（社）駒ヶ根観光協会
TEL：0265-81-7700
FAX：0265-81-7755
MAIL：annai@city.komagane.nagano.jp

駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム構想協議会

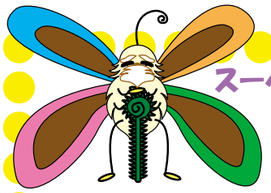




# 講座「土砂災害の伝承－伊那市三峰川周辺－」

## 土砂災害の史実を伝える各地のおはなしを紹介します。

島田千亜紀・北澤秋司



### スーベ・ヤムじいちゃんのおはなしシリーズ 1
### 「赤河原の大蛇」

むかーしむかしのおおむかし、長谷の山奥を流れる戸台川の上流に、七色に輝くウロコをもった大蛇がすんでおった。この大蛇、ときどき里へと下りてきては、人々に危害を加えるので、みんなは恐れていたんじゃ。

そんなある日のこと、東の国へと悪者退治に出ておられたヤマトタケルノミコトさまが、東駒ケ岳を越えて、入野谷へとお立ち寄りになった。

そこで、この大蛇のはなしを聞いた、ヤマトタケルノミコトさま。 戸台川の河原で大蛇を見つけご自慢の太刀をふりあげたとさ。

「大蛇よ！われが成敗してくれよう。」シャーっと、とぐろを巻いて襲いかかる大蛇にひるむことなく太刀をふりおろし、鋭く切りつけた。すると、大蛇の体からありったけの血潮がふきだした。あたりの河原は、真っ赤に染まったとさ。

あまりの苦しさに、大蛇が広い河原をのたうちまわると、虹色に輝くウロコは空高く飛び散り、大きな虹を描いて、南アルプスの深い谷間へと落ちていったんじゃ。

ヤマトタケルノミコトさまは、退治した大蛇の頭をたずさえて、溝口の里まで下りてまいると、大きな桑の木のそばにその頭を埋めたとさ。

里の人たちは、この地に尾張の国から熱田神宮をおむかえしてな、苦しみから救ってくれたヤマトタケルノミコトさまをお祀りしたということさ。

そうそう、わしのじっちゃんがな、南アルプスの谷を流れる三峰川に行くと「三峰川の七石」という七色に輝く珍しい石があるといっておった。それから、戸台川をのぼっていくと「赤河原」と呼ばれる場所があってな、河原の石はどれもみな赤色なんじゃといっておった。

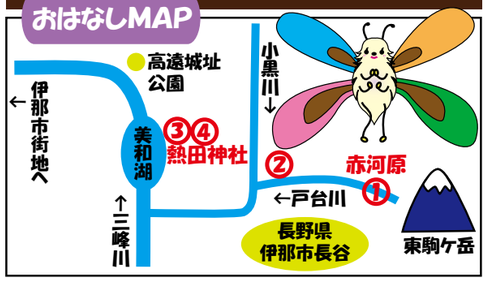
①風化が進み、赤褐色に変質した駒ケ岳花崗岩。「赤河原」と呼ばれている河原に多くみられる。

②戸台川流域に多くみられる輝緑凝灰岩（シャールスタイン）。種々に変質して緑色・紫赤色などの色をしている。虹色に輝く大蛇のウロコのようである。

③ヤマトタケルノミコトが、大蛇の頭を埋めたといわれている長谷の熱田神社。

④熱田神社本殿の土台に施された色彩豊かな彫刻。国の有形文化財に指定されている。

### おはなしMAP



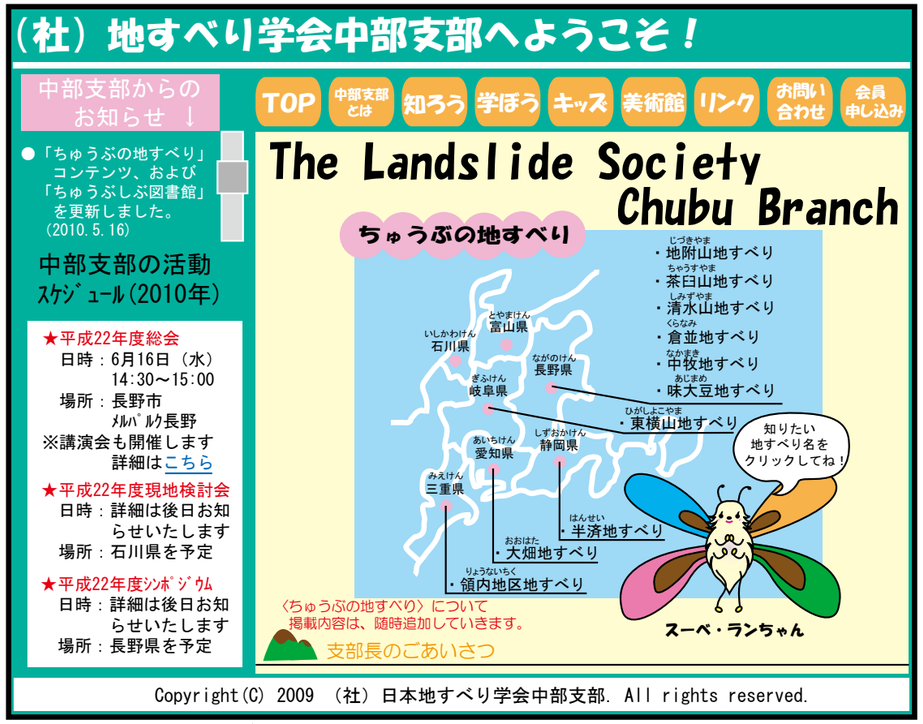

※このおはなしは、長野県伊那市の旧長谷村地域に伝わる「赤河原」と「三峰川の七石」という伝説を参考にしています。過去に起こった土石流現象を、水を司る大蛇とヤマトタケルノミコトの闘いになぞらえて語り継ぐことにより、その土地に住む人々に「自分の身を守るように備えよ。」という防災意識を持つことの大切さを教えてくれているのだと思います。

# 広報（その 1）

## 中部支部のホームページにアクセスしてね!

**http://jisuberi-chubu.org/**

「会員が参加できる」ホームページづくりをテーマに内容をリニューアルしています。「こんなコンテンツを増やしほしい！」などなど、皆様のご意見やアイデアをお待ちしております。




▲トップページのイメージ

### ★ コンテンツの紹介 ★

| | |
|---|---|
| ちゅうぶの地すべり | 中部支部の各県に発生した地すべりを紹介するページです。各県庁の中部支部担当者の方にご協力をいただき、掲載内容を作成しています。随時、地すべり地を追加していきます。 |
| 知ろう | これまでに発行された中部支部ニュースやシンポジウム等の資料、中部支部管内の各県で作成した冊子やパンフレット、その他会員の方が執筆された文献・資料をご提供いただき、閲覧できるページです。 |
| 学ぼう | 会員のもつ土砂災害に関連した知識を地域社会の方々や教育現場へ普及し、地域の防災力向上に寄与できればと思います。防災啓発や防災教育のためのボランティア・ティーチャー派遣の取り組みを始めます。ご賛同いただける会員諸氏の登録をホームページにて募集しています！ |
| 美術館 | 中部地域の雄大な山々をフィールドにしている会員が多い中部支部。隠れた才能を持った人が多くいます。そんな会員の方が創作した作品を紹介するページです。絵画・写真・エッセイ等ジャンルは問いません。作品の電子データをホームページにて募集しています！ |

お問い合わせは、企画担当幹事のメールアドレスまで→　info@assist-zero.biz（担当：島田）





# 広報（その 2）

## 「日本の技術を海外で」　聴講無料

### 演題「海外技術協力　イランの場合」

長野県建設部参事兼砂防課　　課長　　長井　隆幸　氏

### 演題「海外斜面災害事情」

日本工営（株）国土保全事業部　副技師長　上野　雄一　氏

日　時　　平成 22 年 6 月 16 日（水）　15:00 ～ 17:00（CPD 単位 =2）

場　所　　メルパルク長野　長野県長野市鶴賀高畑 752-8

JR 長野駅東口徒歩 5 分　　電話:026（225）7800

お問い合わせ先電話　電話:026（227）9878　（社）日本地すべり学会中部支部

主催　　（社）日本地すべり学会中部支部　後援　長野県治水砂防協会

## 特別協賛法人（6 口）

3 口

長野県治水砂防協会

1 口

（社）斜面防災対策技術協会中部長野県支部

（社）斜面防災対策技術協会北陸石川県支部

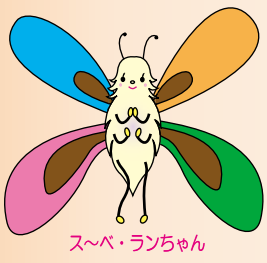
（社）斜面防災対策技術協会北陸富山県支部　　（敬称略）（平成 22 年 4 月 1 日現在）

## 協賛法人（40 口）

1 口

愛知時計電機（株）名古屋支店
（株）アーキジオ
（有）アルプス調査所
（株）エスイー
応用地質（株）長野支店
（株）オサシ・テクノス
小谷建設（株）
office アシスト・ゼロ
川崎地質（株）中部支店
関東地質（株）長野営業所
（株）建設コンサルタントセンター
国土防災技術（株）静岡支店
国土防災技術（株）長野支店
国土防災技術（株）名古屋支店
五大開発（株）
（株）サクセン
（有）ソック
綜合地質コンサルタント（株）
（株）東京電機
（株）中部測地研究所
中部地下開発（株）
（株）土木管理総合試験所
長野県地質ボーリング協会
日特建設（株）長野支店
日特建設（株）名古屋支店
日本エルダルト（株）
日本工営（株）長野事務所
日本工営（株）名古屋支店
日本綜合建設（株）
日本物理探鑛（株）長野事務所
（株）富士和
フロテックアンカー技術研究会
（株）北信ボーリング
北陽建設（株）
明治コンサルタント（株）静岡支店
明治コンサルタント（株）長野支店
（株）みすず綜合コンサルタント
（株）理学
（株）ランドテクト
鷲澤建設（株）

（敬称略）（平成 22 年 4 月 1 日現在）




（地すべり学会中部支部キャラクター）

地すべり学会中部支部ニュース
〒 380-8553
中部支部事務局
長野市若里 4-17-1　信州大学工学部社会開発工学科内
電話・FAX　026-284-0833　http://jisuberi-chubu.org/
（企画・編集　飯沼達夫、梅崎建夫、中屋眞司）